

茗溪



正月

2025

令和7年

no.1123

目次

- グラビア …… 01～02
- 新年のご挨拶 …… 03
- 年頭挨拶 …… 04
- 茗溪創基 150年記念事業寄付金報告 …… 05
- 筑波大学一期生の会 …… 06～07
- 新しい時代に必要となる資質・能力の育成を目指して …… 08～09
- 医薬品・関連業界交流会報告 …… 10～11
- Peer Garden (茗溪アルバム) …… 12～13
- 茗溪点描～或る日の茗溪会館 …… 14～15
- 東京茗溪会総会報告 …… 16～17
- 元素講話こぼれ話 第7話 …… 18
- 茗溪・東西南北 …… 19
- 桐の葉のつどい …… 20～22
- 筑波大学は今 …… 23
- 茗溪学園だより …… 24
- 追悼録 …… 25
- 令和6年度秋の叙勲おめでとうございます …… 26
- 広報 …… 26 ■ 表紙のことば …… 26 ■ 編集後記 …… 26



「可睡斎のひなまつり」(撮影：鈴木一弘)



安全に、快適に、正確に

大曾根タクシー株式会社

代表取締役 塚本 一也

☆GOアプリ配車
☆貸切バス事業者より
安全性評価認定(★★★)されました



〒300-3261 茨城県つくば市花畑3丁目19-4

TEL 029-864-0301
FAX 029-864-4727
メールアドレス <http://www.taxi.e-tsukuba.jp>

フリーダイヤル 0120-000-302
各営業所に通じます



地域と歩み、次代を創る。

SEKISHO
SEKISHO GROUP

当社は「財団法人関彰育英会」を通して、筑波大学大学院博士後期課程の院生に、研究支援として奨学金の支給を行っております。



関彰商事株式会社

代表取締役社長 関 正樹

つくば本社 / 茨城県つくば市二の宮 1-23-6 TEL 029-860-5151
若溪会担当：専務取締役 岡本 俊一
(昭和56年 第一学群社会学類卒業)

<https://www.sekisho.co.jp/>

KAIT

力と自信がつく教育で
「考え、行動する人材」を育成します。



- 工学部
 - 機械工学科
 - 電気電子情報工学科
 - 応用化学生物学科

- 情報学部
 - 情報工学科
 - 情報ネットワーク・コミュニケーション学科
 - 情報メディア学科
 - 情報システム学科

- 健康医療科学部
 - 看護学科(看護師・保健師養成課程)
 - 管理栄養学科(管理栄養士養成課程)
 - 臨床工学科(臨床工学技士養成課程)

教職センター 大畑多津雄(S52 理)
林 忠(S58第1自)
吉川 亮(S60第2比)



神奈川工科大学
KANAGAWA INSTITUTE OF TECHNOLOGY

〒243-0292 神奈川県厚木市下荻野1030
TEL.046-291-3002 URL:<https://www.kait.jp/>



①
幹事の皆さん
②~④
会場風景
⑤~⑨
学群学類別集合写真



新年のご挨拶

一般社団法人 茗溪会
理事長 井口 武雄



明けましておめでとうございます。

茗溪会会員の皆様が明るく爽やかに新しい年をお迎えになられましたことにお慶びを申し上げます。

あわせて会員とご家族の皆様のご健勝とご多幸をお祈り致します。

引き続き役員一同「元気に語り合える茗溪会」の進展に努力を重ねてまいりますのでよろしくお願い致します。

昨年3月の「茗溪創基一五〇年記念誌」の刊行をもって記念事業の全てを完了致しました。すでに多くの会員の皆様がこの記念誌のページを開き様々の思いを巡らされたことと思います。

茗溪会は教育界において活躍をされている会員の集いと産業界・官界等で活躍をされている会員の集いの2本の

大きな柱を持つ特徴のある大学卒業生の同窓会であります。教職会の集いは教職に進むことを希望する筑波大学の学生に向けて毎年教員試験の指導を実施することを中心に活動を行っております。昨年度は2月に筑波大学ヒューマンエンパワーメント推進局と共催で2日間にわたり第38回教職研修会を実施しました。講師は会員の校長経験者などが務めております。日本の将来を担う人材を育てなければならぬことが大きな課題であるにも関わらず教員の数が不足している現実の中で多くの優秀な教員の誕生が待たれております。

産業界・官界につきましては筑波・茗溪産業界倶楽部を形成して産業界・官界などで活躍されている会員が集い情報交換などを行うとともに外に向けての活動も活発に行っております。筑波大学の卒業生と学生が一堂に会して行う「OB・OGキャリアアカフェ」がその一つであります。ここではキャリアを磨く為の懇談を行うことに加えて卒業後の就業について卒業生の経験をふまえた話し合いも行われます。昨年は11月に筑波大学の学生会館において12回目のキャリアアカフェを実施しました。ここまでに卒業生は約400人が参加しております。さらに月に一度夜にオンラインで卒業生と学生がざっくばらんに懇談する「ぶつちやけ相談会」を実施しております。

筑波大学との絆を強くするための活

動にも力を注いでいます。「筑波大学芸術賞」の中に「茗溪会賞」を設けて学生・大学院生の優れた芸術作品に対して表彰を行うのがその一つです。昨年の受賞作品は機関誌茗溪の夏号に紹介されていますのでご覧いただいた方も多いかと思えます。

もう一つは「茗溪会学生活動支援事業」であります。学生が行う様々の特色のある活動に対して助成金を出しています。昨年は28の活動に対して助成金をお渡ししました。

「筑波大学一期生の会」が昨年開かれました。

原野の中でキャンパス等の工事が進む中入学された一期生が全国から120人も茗溪会館に集まり当時の喜びと不安を思い出しながら懇談をされました。茗溪会はこの後援を致しております。今年度は「二期生の会」が予定されているとうかがっております。

茗溪会の運営における今年の最大のテーマは会費の値上げの実施であります。昨年の総会におきまして、30年間変わらなかつた年会費3,500円を5,000円にすること及び一年間の準備期間をもうけることが決定されました。この決定に従い7月から実施することになります。

茗溪会の会計は、「会費会計」と「資産会計」の2つで成り立っております。資産会計は茗溪会館の運営を中心とす

る会計です。会費会計では会費と寄付等を収入として会の運営、筑波大学への支援などを行っております。この2つの合計では黒字であります。これは会費会計が大幅な赤字でありながら資産会計の黒字により補填されている結果であります。会館につきましては建物の大規模な補修や設備の入替えなどが必要になります。それをきちんと行わないと事故の原因となるばかりでなく会館機能の維持が叶わなくなります。そこで会費会計の赤字解消のために会費の値上げをお願いすることになりました。しかし、これで確実に赤字が解消するわけではありません。何度も申し上げてきました課題の克服が必要であります。会費納入率の5%台からの脱出と会員の7,000人規模の増加を合わせて行なう必要があります。

地域茗溪会（支部）との絆の更なる強化を課題の一つに掲げて昨年も地域茗溪会の総会などに理事がお伺いしております。そのことにより地域茗溪会の実態と課題を十分に認識するとともに茗溪会との絆の強化に資することを目指しております。平成5年度には24の地域茗溪会の総会に事務局長を中心にして理事がお伺いいたしました。今年も引き続き出来るだけ多くの地域茗溪会にお伺いして役員の皆様をはじめ会員の方々との懇談に努めてまいります。

筑波大学長年頭挨拶

筑波大学長 永田 恭介



明けましておめでとうございます。旧年中は、茗溪会の皆様には様々なご支援をいただき誠にありがとうございました。

昨年の夏、パリで開催されたオリンピック・パラリンピック競技大会では、本学の出身者や在学生が素晴らしい活躍を見せ、合わせて4つの金メダルと1つの銀メダルを獲得してくれました。オリンピックの男子柔道81キログ級では、本学出身の永瀬貴規さんが、この階級の史上初となる2大会連続金メダルを達成しました。パラリンピックでは、水泳で附属視覚特別支援学校出身の木村敬一さんが、柔道で在学生の瀬戸勇次郎さんがそれぞれ金メダルを獲得してくれました。アスリートたちの活躍に心が躍り、また障がいのある選手たちの努力を身近に感じることができた大会でした。

4月から始まる2025年度は、国

立大学法人の第4期中期目標期間の4年目にあたります。4年目までの取組が国によって評価されることになりました。一昨年の開学50周年を期に掲げた「未来構想大学」というコンセプトを胸に、「エンゲージメントの強化」や「固定化された社会の変革」に向け、進化を続けなければなりません。

研究の推進は社会の課題を解決する基盤です。昨年4月に、本学は米国ワシントン大学、NVIDIA社、Amazon社との間で、AI分野におけるパートナーシップを締結しました。このパートナーシップは、共同研究、人材育成、アントレプレナーシップ、社会実装への道筋などで構成されており、NVIDIA社とAmazon社から、10年間で合わせて5000万ドルの支援をいただきます。ワシントン大学や関係企業などとの協働により、本学にAI分野の拠点形成し、世界が直面する社会課題の解決に貢献していきます。

教育は未来を築く礎であり、質の向上に向けて不断の改革を進めています。教員と学生が学問的な問題を設定して議論を重ねる「学問探究チュートリアル」という少人数科目を今年度から学士課程に開講しました。学生宿舎は、今後、これらの教育や社会との共創をも意図した形態にリニューアルし、学びの機会にも活用することになっています。あわせて宿舎エリアには、2025年度中の完成を目指して「未来社会デザイン棟」を建設しており、そこは学生が地域や企業、グローバル社会と日常的につながる場となります。

昨年9月には、マレーシアに「国際サイエンス・デザイン専門学群」、いわゆる海外分校を開校しました。日本の学位を海外で授与する初の取組であり、開校式に出席した際には、現地政府や産業界などからの強い期待を感じました。日本の高等教育を海外に展開する先駆者として、地球規模課題を解決する人材の育成に取り組んでまいります。産官学金の協働に向けた新しい取り組みも進展しています。昨年8月に、本学は三井住友フィナンシャルグループとの間で包括連携協定を締結しました。総合金融グループであるSMBCグループの経営ノウハウを融合させ、サステナブルで競争力のある大学経営基盤を確立していきます。大学と金融機関の連携モデルとして、本協定のもとで多様な施策を創出し、この取組を地域や他の大学にも拡げること、社会変革に繋がる価値創造を推進していきます。

本年度は国立大学が法人化して20年の節目にあたります。法人化とは、自律した経営体への変革を意味しています。国からの運営費交付金は大学活動の基盤を支えるものであっても、世界トップレベルの研究大学へと飛躍し、固定化された社会を変革していくためには全く十分なものではありません。法人としてのガバナンス体制を強化するため、本学は、昨年4月に事業・ファイナンス局を設置しました。財源の多様化と自己収入の拡大を一体的に推進していきます。同局は資産運用のみならず、寄附金収入の拡大や同窓生



SMBCグループとの包括連携協定締結式



AIパートナーシップ締結式(米国商務省)



オリパラ競技大会成果報告の様子



マレーシア校の開校式

をはじめとする様々なステークホルダーとのリレーション強化をミッションとしています。本学は貴会を含めた世界中の同窓生とのつながりを更に強化していきます。本学はこれからも怯むことなく、社会の要請の一步先を見据え、「冒険する大学」として未来創造に挑戦してまいります。伝統ある貴会と同窓生諸兄弟には、ますますのご発展を祈念申し上げます。本学の様々な活動にご理解をいただき、本年も引き続きご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

茗溪創基150年記念事業寄付金収支(中間)報告

令和6年11月末現在

寄付金等収入

150年記念事業(占春園整備事業を含む)

(単位：円)

年	収入	金額	支出	金額	残額	備考
平成29年	寄付金	10,302,000	占春園堀 掘り起こし費用	1,132,596		
平成30年	寄付金	1,686,000	占春園 伐採作業費	3,093,449		
令和元年	寄付金	8,448,264	建仁寺垣製作工事費	633,200		
令和2年	寄付金	8,440,005	植栽工事費	539,300		
令和3年	寄付金	5,433,525	敷石・石積み工事費	1,757,328		
令和4年	寄付金	5,297,000	庭園設置工事費	1,618,822		
令和5年	寄付金	2,724,000	記念碑設置工事費	991,440		
〃	式典参加費	686,000	占春園整備に関する筑波大との打ち合わせに伴う費用	12,872		
令和6年	寄付金	787,000	占春園揮毫額装費	36,250		
〃	記念誌購入	208,000	事業実行委員会打合せに伴う費用	27,596		
			扇子筆耕謝金	100,000		
			扇面複製印刷費	246,400		
			唐びつ作製費	330,110		
			物故者帳作成費	31,328		
			寄付者銘板作製費	905,520		
			銘板プレート作製費	75,680		
			記念品(扇子)作製費	4,400,000		
			150年記念式典開催に伴う経費	1,920,997		
			シオリ作成費	150,062		
			150年記念誌作成費	5,137,000		
			記念誌・記念品郵送料	1,125,665		
			寄付金額収書(中間)印刷費用	71,176		
			つくば茗溪倶楽部開催に伴う費用	1,158,610		
			茗溪倶楽部ブロック開催に伴う出張費	538,440		
			消耗品費	44,818		
			ゆうちょ銀行手数料	1,288,768		
	収入合計	44,011,794	支出合計	27,367,427	16,644,367	



筑波大学 一期生の会 「入学50年目の集い」



2024.10.5 茗溪会館にて

50年後の茗荷谷にて

2024年10月5日。土曜の午後の茗荷谷駅周辺は、若者たちでにぎわっていた。秋の週末、いくつかのイベントが開かれるらしい。改札付近にプラカードが並ぶ。ここは昔から大学だけでなく初等中等教育の学校も多く、まさに「文教の街」という特色があったと思う。近年は私学の新キャンパスもできて、ますますその色を濃くしているようだ。そんなこの街の若者たちに混じって「50年前の新生」が、きょうここに集う。

1974年に入学の、筑波大学一期生「入学50年目の集い」が、茗溪会館2階「茗溪の間」にて開かれた。50年目の秋の再会。思えば私たちは、ここ茗荷谷の東京教育大キャンパスで入学試験を受けている。50年の昔。その頃の風景を思い返しながら会場へと歩く。街も変わったとすれば、私たちもそれだけの春秋星霜を経ている。景色がまぶしい。

懐かしい その顔もその声も

2階エントランスに設けた受付では、一群の人文、社会、自然、そして体育と医学、5つに分けて案内した。ここからすでにタイムトンネルの扉が開く。集いくる、懐かしい顔ぶれ。ひさしぶり。声をかけあい、会話が弾ける。受付周辺から渋滞になりかけたので、司会者が本会場への入場をうながす。各学群、学類別に円卓が用意されていて、仲間を手招きしている。思い出す、懐

かしいその名前。あるいは顔も憶えていて、わかっているのに。名前が出てこなかったり。でも大丈夫。話していれば思い出すから、そのうちに。あんなことも、こんなことも。そういえば、きょうは来られなかった、あのひとのことも。みんな懐かしい。

はじまりの筑波大学

この会は、いきなり時間をワープして本題へと入ることができた。そんな気がする。対面して、思い出して、交歓するという場へ、スムーズに。賛同とご支援をいただいた茗溪会の井口武雄理事長からのご挨拶にはじまり、大学の事業リレーション室の紹介もあったあと。有志による幹事も登壇して、体育の奈良隆君による乾杯の発声。あとはもう、懐かしさの洪水。歓談タイムはスタートから盛り上がる。この親和力は独特かと思う。

50年前の出会いには、まだ建設途中の筑波キャンパスより先に、代々木のオリンピック記念青少年センターでの合宿生活からはじまっている。これも稀有な体験といえるべきだろう。すべてはじめてのことばかり。それは教員も職員も同じ、筑波大学の船出にみんな乗り合わせたことになる。行き先は「未来」だった。

筑波という時間の中で

当時のキャンパスは工事中。建設現場そのものといった環境だった。平砂の学生宿舎に（地元出身の学友たちをのぞいて）ほぼ全員が入居したという

のも前例のないことだろう。狭いながらも全室個室というのも。男子棟、女子棟が同じ敷地のコミュニケーション的環境だった、という事実も。まったくもって先進的で画期的だっただろうな、いま思えば。50年も昔に。さすがに、いまや築50年の学生宿舎はレトロかわいそうなくらいの住空間となってしまうていけるけれど。

でも、筑波大学という環境はやっぱり独特だった。いまの在学生や卒業生たちに聞いても、それを感じているのがわかる。卒業して、年が経つほどに思うだろう。あるひとが的確なことを言っていた。それは「筑波時間」の濃密さだ。

1970年代の若者たち

宿舎生活の話。それからサークル活動の話とか。やっぱりみんな、懐かしい思い出で盛り上がってゆく。同世代の同級生だったからね。そうだ、僕はサークルの諸活動でも、初代立ち上げメンバーだったりのだ。先輩という存在もいなくて。50年後のいまも、継続している活動が多いというのも誇らしい。

しばらく歓談が続いたあと、「思い出のスライドショー」がはじまった。自然の高橋基之君と渡辺史人君が案内役。新築の校舎や松見公園、学生だった仲間たちの姿が映し出されて、溜息にも似た声上がる。ちよつと笑い声も混じっているのは、いかにも70年代だったファッションのせいかな。あるいは男子たちの長く豊かな頭髪のせいだろうか。「時の流れ」をいけば感じる部分だからね。

新構想大学の一期生として

懐かしい。けれど、それがセピア色のノスタルジーに留まらないところが、この一期生たちの思いとしてある。いま思えば、なにもかも新しかった、未来志向の「新構想大学」だったと。学系と学群学類というシステムも。75分の授業時間も。体育が必修というのだから。いまも続く、筑波の伝統となっている。

そして「情報」が共通科目として必修だったこと。これこそ、じつに先見の明があったと思う。「これからはコンピュータの時代になる」と言われながら、半信半疑じゃなかったかな。文学を専攻するつもりも「フオートラン」とか習ったし。それが、いまこうして原稿書きにパソコンを使っているのだから。

いつか調べてみたところ、あの電算機室にあったHITACの、あの大型冷蔵庫みたいな磁気テープの記録装置。あれは当時、8MBとか、せいぜい16MBとかだったらしい。いまだたら数百円で買える小さなメディアくらい。こんなことも、50年の「時の流れ」として。

「あの日の君に」を歌おう

いまから8年ほど前のこと。人文の一部の卒業生のあいだで生まれた歌がある。石島正秀君の作曲で一倉が作詞。有志の集まりの席で歌われてきた。フオーク調でポップス風、ギターで伴奏して。僕らの世代にも親しみやすく、

歌いやすいと思う。この歌を全学の一期会でも披露してみんな歌おう、ということになった。

二期生で、筑音協の創設メンバーでもあった作曲家の吉川洋一郎君に依頼して、練習用と歌唱用のオケを制作。それにカラオケ風の映像をつけて映写した。

あの日の君が遠くで
笑いながら手を振ってる
僕らいつか そうだいつも
歩いた道があった

(中略)

未来とは いつも手探りで
いつか それぞれ歩いた道
あの日 あの時の 君に会いたくて
そっと 君の名を呼ぶ

そうだ。あれから「50年後の未来」に僕たちはいまや、立っているのだ。

代表スピーチと写真撮影

開会からすでに2時間半近く、語り飽きない時間がつづく。それぞれがスマホで撮りあって。学生時代には声もかけられなかった女子と、ツーショットが撮れたと感無量の元男子もいる。そうか、50年かかって、やっと話せたのね。それもまた、長い時間のなせる技なのかな。

ここでそろそろ、各学群学類を代表したメンバーに登壇いただき、ご挨拶のスピーチをお願いしよう。100名を超える出席メンバー全員にマイクを回すことはできない。残念ながら。そこで、

人文、社会、自然、体育、医学から、代表してひとりずつ。個人の自己紹介と同期としての共有体験などを織り交ぜながら。みんな、それぞれに歩いた道があった。

それから最後に、学群学類ごとに集合しての記念撮影タイム。笑って、なんてわざわざ言わなくても。みんな、自然にいい顔になってるから。間違いなく。

そして 再会を約束して

いよいよエンディングの時が近づいてくる。名残惜しいけれど。3時間もの長時間にわたって。126名もの参加者を数えて。大盛況、大成功と言っているだろう。最後に「あの日の君に」をもう一度歌うという、予定外のリクエストも。

そして、ついに中締めへ。自然の高橋君の音頭で。大拍手の後、本日の司会、人文の竹下克司君から、散会を告げたあとに二次会のアナウンスなど。さらに、これは幹事会でもまだ未定だった、次回のお知らせ。「また会おう。またここで。3年後に！」という突然の発表。これは司会のアドリブだったらしいけれど。

一人もいなかったら。それを、意外にも不満にも思う者は。会場は大いなる同意の拍手に包まれたのだから。

(一倉 宏)

筑波大学一期生「入学50年目の集い」

幹事：高橋基之(自然) 廣田則夫・小林千洋(社会) 一倉宏・竹下克司(人文) 西塚春義・奈良隆(体育) 村岡亮(医学)

新しい時代に必要となる 資質・能力の育成を目指して

竹鼻 志乃(89筑二生物)

1 はじめに

この度は身に余る機会をいただきまして、ご関係の皆様にご挨拶申し上げます。

私は1989年3月に筑波大学第二学群生物学類を卒業しました。民間企業(味の素株式会社中央研究所)に4年間勤めた後、母校の豊島岡女子学園中学校・高等学校(以下、豊島岡)に理科教員として着任しました。初の卒業生校長を引き受けて12年目になります。昨年10月17日(木)に茗溪会館で開催された「茗溪・筑波 異業種交流会」で、「今どきの女子教育―母校の昔と今の違いから」と題して話題提供させていただきました。茗溪会には多くの教育の専門家がいらつしやり、私には荷が重すぎると思いましたが、国立学校とともに公教育を担っている私立学校の、建学の精神に基づく特色ある教育活動を紹介する良い機会であると考え、お話しさせていただきました。

そのようなご縁により、今回は頂戴しましたお題に即するよう、豊島岡の取り組みを紹介させていただきます。

近年は、女性のSTEM(科学、技術、工学、数学)分野での活躍が推進され、女性の人材育成機関としての「女子校」が改めて注目されています。女子校の中でも、豊島岡は2018年度より文部科学省のスーパーサイエンスハイス

クール(SSH)の指定を受け、生徒の3分の2が理系志望、医学部や理工学部を目指す生徒の多い学校です。所在地は東京都豊島区東池袋1-25-22、生徒数は中学81人、高校764人です。

2 豊島岡の「運針」

豊島岡は1892年に創設された女子裁縫専門学校から始まり、戦後現校地への移転を機に、校名を豊島岡女子学園中学校・高等学校と変更して今に至り、132年になります。

豊島岡としての再出発にあたり、創立以来の教育の継承として「道義実践(人として踏み行ふべき正しい道を行ふ)」、勤勉努力(真面目に努力を積み重ねる)、一能専念(一人ひとりが持つ優れた才能を発見し、伸ばしていく)を教育方針に掲げ、授業前「毎朝5分間の運針」も開始されました。

朝8時15分のチャイムと同時に、全校生徒が一斉に運針を始めます。1メートルの白い布を赤い糸で端から針を進め、縫い終わると糸を抜き、また端から縫い始めることを繰り返します。運針の目的は、無心になる、基礎の大切

さを知る、努力の積み重ねの大切さを学ぶ、特技を持つ、の4つで、「勤勉努力」と「一能専念」の大切



全校一斉に行う毎朝5分間の運針

さを身をもって学ぶ取り組みです。

3 「志力を持つて 未来を創る女性」の育成

変化の予測が困難な時代を生きる生徒たちには、社会の変化に主体的に向き合い、自分のできることを模索し、「自分は」のように社会に貢献したい」という志と志を実現する力(志力)を持つて、よりよい社会を創っていくことが求められます。豊島岡では「志力を持つて未来を創る女性」の育成をスクールミッションに掲げ、未来を創る力として「科学的思考で課題解決できる力、挑戦する力、世界で活躍できる力」の育成を目指しています。

豊島岡ではSSH指定以前より、志力を育成するために、探究活動に力を入れて取り組んできました。2022年度より完全中高一貫化し、各教科の学習と探究活動、グローバル教育をバランスよく組み合わせ、6年間の継続的な教育課程を編成して、生徒たちの未来を創る力を育てています。

4 特色ある探究活動

探究活動の6カ年の取り組みは、中学1年生から高校3年生まで通年で行うもの(探究Basic)、科学探究I・II、総合探究II、科学考究III)から、中学1・2年生が学年行事として行うもの(T-STEAM:Jr)、学年の枠を超えて希望者が行うもの(T-STEAM:Pro)、希望者が宿泊研修の形で行うものなど多岐にわたります。

(1) T-STEAM

豊島岡独自のSTEAM(科学、技

術、工学、芸術、数学)教育全体をT-STEAMと呼び、モノづくりを通じた課題探究型プロジェクトを、低学年から段階的に行っています。中学で基礎的なモノづくりの経験(T-STEAM:Jr)を積んで、希望者がハイレベルな課題(T-STEAM:Pro)に挑戦できるようにしています。

2015年に「モノづくりプロジェクト」として、希望者がチームで車や飛行体などをつくり上げ、コンテスト形式でその成果を競い合う取り組みをスタートさせました。毎年テーマを変えて実施し、2018年には他校のチームも加わるようになり、2021年に「T-STEAM:Pro」に名称を変更、中学生には学年ごとにテーマを設定して全員が参加する「T-STEAM:Jr」を導入しました。

T-STEAMでは、アイデアを形にすることの難しさと奥深さを学びます。また、正解のない課題に取り組み、積極的に失敗し、失敗から学ぶという試行錯誤の過程を大切にしたいと考えています。そして、他者と協働して何かを作り上げる喜びや達成感を得て、より良いモノをつくりたい、新しいことに挑戦したいという意欲を育てたいと考えています。

● T-STEAM:Pro

2024年のテーマは「障害を回避する自律走行型ロボットを開発せよ!」。7月にキックオフし、12月には15校から150名以上の生徒が集まり、既定のコースを走破するレースが開催されます。コンテストでは、アイデア、タイム、障害物回避能力の3項目につ

いて競技が行われ、競技部門の優勝、審査員特別賞、総合優勝が決まります。

「T-STEAM Pro 過去の実施例」クリップモーターカー(2015)、重量挙げコンテスト、スパゲティブリッジ(2016)、リニアモーターカー(2017)、FLY HIGH! 飛ぶ生き物を模倣せよ(2018)、衝撃を吸収する機構を開発せよ(2019)、水上で姿勢を制御せよ(2021)、筋電義手の開発・制御にチャレンジ(2022)、FLY HIGH! 羽ばたく生き物を模倣せよ(2023)

※2020年は新型コロナウイルスで実施なし



T-STEAM : Pro 2024
試作段階の自律走行型ロボット

● T-STEAM : Jr

中学1・2年生が学年ごとにテーマを設定して全員で取り組む学年行事で、年に2回実施します。2024年5月には、中1生がクリアファイルを動力源にしたクリアファイルカーを製作し、スピードと走行距離を競い合いました。中2生は、ストローを指に、工作用紙を腕に見立てた義手づくりを行い、



アイデアを出し、工夫を重ね、
義手づくりに挑戦する中2生

コップをつかんで中のスチロール球を別の容器に移動させたり、細いストローを太いストローに差し込んだりするミッションに挑みました。

(2) Academic Day

課題探究の校内での成果発表会を Academic Day と呼び、学校全体の行事として9月(中間発表)と2月(最終発表)に行っています。中学の希望者が取り組む探究 Basic と高校生の通年探究の発表の他に、校内外でいろいろな挑戦的なプログラムに取り組んできた生徒たちの発表も行っています。発表形式は口頭発表やポスター発表で、SSH 成果発表会を兼ねて実施しています。

2024年9月の Academic Day の発表件数は42件でしたが、その中には、インドのデリー首都圏にある名門私立女子校 Uttam School for Girls (以下 Uttam 校) の生徒による3件のポスター発表もありました。Uttam 校とは、2022年よりオンラインで中学1・2年生が異文化交流、高校生が探究活動の交流を始め、2023年の T-STEAM Pro 「FLY HIGH!

羽ばたく生き物を模倣せよ」にオンラインで競技参加するなど、交流の幅を広げています。2023年12月には豊島岡から希望者12名が Uttam 校を訪れ、各自の探究成果を発表しました。2024年9月には Uttam 校から生徒6人が来校し、Academic Day で発表するという、探究活動を通じた交換プログラムになりました。日本とも欧米とも異なる文化や価値観を持つ積極的なインド生徒との交流は、生徒たちの「世界で活躍できる力」の育成につながるものと考えています。



ポスター発表をするインドの Uttam 校の生徒

(3) 探究型宿泊研修

希望者を対象に、校内ではできない専門的な探究活動を長崎県壱岐島と北海道大樹町とで実施しています。壱岐島研修では、地域密着型の本格的な課題解決に、壱岐市役所や壱岐市の企業と連携して取り組み、現地実習をします。大樹町研修では、サステイナブルな宇宙開発の取り組みを見学し、火薬ロケットの制作・打ち上げミッションなどを体験します。

両研修ともに、1回参加して終わりではなく、興味関心を深め、アイデアの実装に向けて継続して課題解決に取

り組んだり、ロケット甲子園や缶サツト(模擬人工衛星)甲子園を目指したりする生徒も多くおり、生徒たちの「挑戦する力」の育成にもつながると考えています。



スペースポートで火薬ロケット打ち上げの説明を受ける

5 むすびに

2024年のノーベル賞は物理学賞と化学賞で、人工知能(AI)の研究者が受賞となり、現代社会は AI なしには成り立たないという新時代を告げるメッセージになりました。

社会は今までとは比較できないほど急速に変化しています。どのように生徒に幅広い視野を持たせ、そして未来の社会に対応できる資質・能力を身につけさせることができるのか。本校創設の河村ツネ先生は「才と知と技とは時勢に遅れざれ」の信念で女子教育に取り組みされましたが、「時勢に遅れざれ」を胸に刻み、これまでの教育実践をさらに加速させ、「志力を持って未来を創る女性」の育成に邁進していきたいと思えます。

第6回&第7回医薬品関連業界交流会報告

毎日新聞 記者 荒木涼子 (2009年自然科学類卒)



茗溪会館を飛び出て初開催

筑波大学や大学院の卒業生には、製薬企業をはじめ、医薬品の関連企業で活躍している方がたくさんおり、定期的に交流会を実施しています。6月に

は恒例となった茗溪会館で、10月4日には初めて都内を飛び出し、日本初の製薬企業発サイエンスパークに場所をお借りして、総勢20人で交流を深めました。回を重ねるごとに、議論は深まっています。

◇第6回交流会

新薬の開発では、動物を用いた薬理試験等の結果がヒトに整合しないことがあります。研究にヒトの細胞や組織を用いて、薬の効果や安全性を検証することは、医薬品開発における重要な研究です。

今回、ヒト組織を用いた試験を実施するため、医療機関と製薬企業の橋渡しをされている、85年筑修医科大学の鈴木聡さん(現エイチ・イー・ビー研究機構)にお話を伺いました。

鈴木さんによると、「バイオバンク」と言われるヒトの細胞や組織を管理保管する団体が、2000年〜2015年にかけて設置され、現在、全国に20カ所ほどあるとのこと。当初、バイオバンクと連携する病院から提供されるヒト組織・細胞には、研究の目的に合っているかを判断できる情報が付与されていないことに加え、需要に対応できるほど供給できる体制が整っていませんでした。

その結果、ヒトの細胞や組織を使った研究は、欧米で実施するケースが増えるとともに、やがて凍結及び冷蔵された細胞や組織の輸入も可能になり、国内バイオバンクへの需要が少なくなりました。

このような背景もあり、ヒトの細胞や組織は海外に依存しているのが現状ですが、同じ「ヒト」でも人種によっては薬の作用が異なる可能性もあります。医薬品開発の迅速性や安全保障の観点からも、本来ならば国内で調達するのが理想であり、その必要性を広く認知させる必要があるようです。

鈴木さんは、「今後、さらに人々への理解浸透が必要かもしれません」と締めくくりました。加えて「大学の薬理学教室と臨床現場とのさらなる連携体制も求められる」と呼びかけました。

開発する人材も資金も限られる中、まだまだ「眠れる研究材料」の活用余地がありそうです。

医療機関と製薬企業とのより効率的な橋渡しには何が必要か、鈴木さんの講演後には、製薬企業の社員の方から、行政機関や医療現場で働く方まで、多様な立場からの意見交換ができました。

◇第7回交流会

鈴木さんが所属されるエイチ・イー・ビー研究機構が、神奈川県藤沢市の湘南ヘルスイノベーションパーク(通称「湘南アイパーク」<https://www.shonan-ipark.com/about/>)に入居されているという縁で、同所に入居する「オリヅルセラピューティクス」と「Axelrad Drug Discovery Partners」の筑波大卒業生と繋がり、交流会では初めて、茗溪会館外で行いました。2社とも、創業分野では国内外で注目を集める企業です。(ちなみに、「湘南アイパーク」は、武田薬品工業が2018年4月、自社研究所を外部に開放して誕生した、日本初の製薬企業発サイエンスパークです。オープンイノベーションを加速する場を目指し、製薬企業のみならず、次世代医療、細胞農業、AI、行政機関など約150社、2000人以上(2024年8月現在)の企業・団体が集積し、時に連携しています。)

○オリヅルセラピューティクス

同社の柱の事業が、ノーベル賞を受賞した京都大学 iPS 細胞研究所の山中伸弥教授（受賞時は所長）の人工多能性幹細胞（iPS 細胞）の臨床応用を推進するための細胞医療の研究開発です。同社で、副社長兼 COO として活躍されている 97 年筑博生物の小川慎志さんにお話を伺いました。

細胞治療は、大がかりな手術をするよりも体へのダメージを少なくでき、患者さんの体に負担をかけない画期的な治療法として注目されつつあるそうです。同社ではヒト iPS 細胞を、心筋細胞や膵島細胞に分化させ培養し作製しているとのこと。

重症の心不全患者さんには、「ヒト iPS 細胞由来の心筋細胞」を移植することにより、心機能の回復や生活の質の改善が期待できます。また、血糖コントロールが困難な先天性 1 型糖尿病の患者さんには、「ヒト iPS 細胞由来の膵島細胞」を移植すると、その膵島細胞がインスリンを分泌することで、患者さんは糖尿病が無い方と同じように日常生活を送れることが期待されています。

心筋細胞は患者さんへは、カテーテルなどを通じ心臓へ移植する必要がありますが、膵島細胞は必ずしも膵臓に移植する必要はありません。シートに包んだ膵島細胞を患者さんの皮下に移植する簡単な手術で、培養膵島細胞からインシュリンが分泌され、その効果を期待することができる画期的な治療法となるようです。

ただし、この治療法を確立するため

には、治療に必要な十分な量と質を確保するための高度な細胞培養技術が求められます。この目標を実現するため、同社では高い水準の製造工程（iPS 細胞から目的の細胞を分化させ増やすための工程）を確立しているとのことでした。

○Axcellead Drug Discovery Partners

2017年に武田薬品工業の創業基盤技術を継承し、世界最高水準の創業プラットフォームとして、多様なクライアントの創業研究を支援しています。同社主任研究員で93年筑修化学の奈良植さんに、パーク内にある最新研究施設を見学させていただきました。

●参加者の皆様の感想

①アイパークは、施設も凄かったです。創業の大変さ、山中先生の iPS 細胞の実用化が目前となり、そこに茗溪会のメンバーも大活躍していることを実感しました（79年筑一自花上克宏）。

② iPS 細胞の臨床応用を目指し、様々な研究が行われてきたこと、そして苦労があることが分かりました。治験の成功をお祈りしております（85年筑修医科学 鈴木聡）。

③見学が特に有意義でした。入居企業様との議論も有益でした（05年筑博化 高橋竜之）。

④アイパークの規模の大きさに圧倒されました。入居している企業や大学なども多数あり、コミュニケーションスペースでの交流も何かを生み出すきっかけになりそうだと思います。



詳しく説明していただき感謝しております（82年筑修環境 大石雅彦）
第7回にして初めての「平日」茗溪会館以外での開催は、参加人数も倍増し大成功でした。

オリヅルセラピューティクスの小川さんによる講演では、細胞治療の最先端とも言える iPS 細胞による治療、さらに iPS 細胞を活用した膵島細胞の移植による 1 型糖尿病の治療方法の研究をわかりやすく説明頂き、大変勉強になりました。

また後半のサイトツアーでは関係者しか立ち入ることが出来ないアイパークの内部を説明付きで巡ることができ、日本でもトップクラスの研究開発施設を目の当たりに出来たのは、茗溪会の素晴らしいネットワークがあつてこそだと思います（96年筑社会工 塚本格）。

⑥初めての参加でしたが、大変有意義でした（93年筑修化 奈良植）。
⑦同窓会で、このような企画はとてもユニークな活動であり、今後も参加したいと思えました（11年筑修フロンティア医科学 藤江敬子）。

た。細胞治療の最先端の技術のお話も聞かせていただき、同窓にこんな活躍されている方がいることを知ることができました。研究施設の見学も

終了後、鈴木さんが用意してくださった「湘南アイパーク名物」のお弁当に舌鼓を打ちながら、終了時間を忘れるほど活発な意見交換を行い、帰途に就きました。参加者全員が相変わらず（伝統的に笑）ノリのいい茗溪の仲間でありました。

交流会はあくまで仕事とは別のオンラインミーティングの場。普段、各々が現場で感じているちょっとした疑問を話し合えます。（事務局）

交流の輪を広げませんか？

●他大学では薬学部同窓会等で情報交換をしていると聞き及びます。筑波大学には薬学部はありませんが、医薬品及び関連業界関係の方々が多くいらっしゃるようです。母校に薬学部が無いということは逆に広く大きな輪になる可能性もあります。皆さんで交流の輪を広げませんか？

交流の輪に加われる方、関心のある方は、下記連絡先にご一報下さい。

茗溪会事務局（大塚事務所）
☎ 03-3941-0136
E-mail : peer@meikei.or.jp

Peer Garden

茗溪アルバム 茗溪創基150年記念事業

茗溪150年の思い出を紡ぎませんか？



山男の歌 II

●山岳部報「偃松」

「これなんて読むんですか？」
ハイマツ：高山で地を這うように生育している様から「這松」と書くが、「偃松」は「漢名」に拠るらしい。

唐沢孝一氏（S41教大動物）とお会いしたのは、昨年の夏、茗溪会館5階の役員室であった。前年に、唐沢氏から「思い出の品（寄贈）」と題するメールをいただいていた。

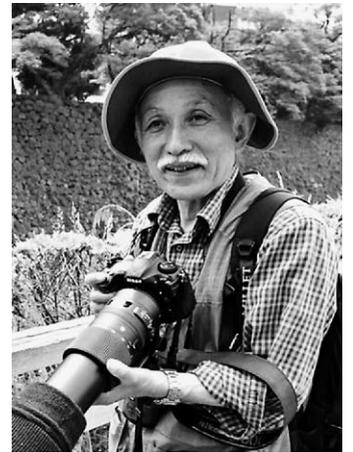
お会いして、「アツ茗溪人だ」と思った。その風貌に、同窓や先輩の面影があったからである。大学に遺伝子などあるはずもないが、校風というものがある。それを多分に受けて、風貌や風格というものが容作られるのかもしれない。

冒頭のやり取りは、唐沢氏が持参した資料類を前にしてのものである。

『偃松』は、東京教育大学山岳部の部報である。昭和30年度発行を第1号とし、昭和53年度の第11号をもって、最終号としている。

初代顧問の青野寿郎名誉教授は、最終号「東京教育大山岳部の追憶」の中で、「……山岳部の高橋重雄君から東京教育大学の閉学とともに山岳部も閉部のやむなきに至ったので、部報の最終号として11号を発刊するから一筆書いてほしい旨の依頼状を……受け取った」と前書きして、筆を進めている。

部報の題字は、吉富享（S32英）が「偃松あれこれ」の中で、「青野寿郎先生に、



復刊の言葉と表紙題字をいただいている」（同11号P13）と記しているし、青野自身も「山岳部の学生が研究室を訪ねて依頼されたのに応じたような気がする」（同11号巻頭）と回想している。

最終号の「閉部にあたって」各OBより」に寄稿した部員の中には、女性もいた。

雪下明子は、同じ出身高校の磯田玲子から、母校での進学OB説明会での帰途、山岳部への入部を誘われたと記している。

磯田が入部を申し出たところ、女性部員がいないので入部するなら女性数人でと言われ、雪下を誘ったのである。

「ある日、W館地下で開かれた穂高合宿準備会に磯田さんと共に参加したのでした。こちらはそれまで山というのは伊東の大室山しか登ったことはないのに、とにかく磯田さんの積極性におとなしい(?)私が引きずられた形で山岳部に入ってしまった」（同11号P3）

『茗溪』秋号（1112号）で、「山男の歌」から書き始めたが、東教大山

岳部には、磯田玲子（S32芸）、森川明子（S32数）、河田多美子（S34芸術）、染谷博子（S35化）、長坂公子（S38芸）と、少なくとも5名の「山女」が所属していた。

唐沢の山岳部在籍は昭和37年～41年で、『偃松』第7号（S37～S38）から第9号が刊行された時期にあたる。

『偃松』第7号に収録の「昭和37年度合宿記録」は、新人歓迎コンパ（4/29）に始まり、白馬岳新人強化合宿（5/24～5/27）、夏山合宿（8/2～8/18）、秋山分散合宿（10/14～10/19）、富士山合宿（11/22～11/25）、冬山合宿（12/23～1/2）春山合宿（3/11～3/24）を記録している。

『偃松』第7号の「昭和37年度合宿記録」に唐沢の名前が登場するのは、夏山合宿からである。白馬岳強化合宿に参加した新入生6名に、3名が新たに加わっている。その中の一人が、唐沢であった。

●唐沢は、山岳部に入部する

唐沢が山岳部の部室を「おそろおそろのぞきこんだ」のは、入学して5月になってからのことである。

「おそろおそろのぞきこんだ」のは訳があった。

「大学山岳部というのは、遭難や新人のシゴキが時々話題になるなど、恐ろしいところ」（同P67）という印象があった。

現に、その年の正月に遭難事故があり、山岳部員の捜索が続けられていた。

ところで、お会いした時、唐沢氏は、「大学時代の山岳部の事が書いてあるので、参考になるかと思えます」と言っていて、一冊の本を差し出した。

【都・市・鳥】The Birds 鳥の目から見た都市文明（平成3年、徳増書房初刷）



通勤電車の中で、手渡された本を読み通した。興味の尽きない内容であった。この本から広がるもう一つの世界（野鳥人生）については後述することにして、唐沢氏の学生時代に戻る。

それまでは、卓球部に顔を出したり、深大寺で開かれた野外生物研究会新入生歓迎会にも参加していたが、長続きしなかったと、唐沢は述懐する。

「受験という目に見えない重圧からようやく解放された」（同P66）唐沢にとって、「自分自身が激しく燃焼できるもの、肉体も精神も極限の状態にまで追い込んで、自分とは何かをとことん試せるような世界」（同P67）を求めていた。

「狭い部屋には、机が一つあり、数人の部員が待つてましたとばかり声をかけてくれた。…チーフリーダーの剣持

二郎さんは文学部哲学科の4年生であったが、いかにも穏やかで、山を語るときは、なかなか思索的であり、内に秘めた山へのロマンを感じとれた。…入部を決意した。」（同）

群馬と長野の県境に嬬恋村がある。

唐沢はその村で幼少時を過ごしたが、中学卒業と同時に、前橋駅に近い民家の二階の北向きの四畳半で一人暮らしを始めた。前橋高校に通うためであった。

村の精米所のオート三輪車で、大きな布団の包みと衣類の入った行李など、引越しの荷物を運んでもらった。

「その夜、購入したばかりの机や椅子を窓際に並べ、畳の上に仰向けに寝転ぶ：目を瞑ると、母が：何か言葉にならない言葉で私に話しかけながら嬬恋に帰っていく。…家族そろってにぎやかに夕食をとっている光景などが、あたかもスライド写真でもみているかのように次々と現れては消えていく。突然、満天の夜空に輝く星の光がかき消されたかと思つて目を開けると、下宿の天井からぶら下がる小さな電灯がポーンと光っていた。」（同）

嬬恋村で幼少期を送り、村を巣立つように都会へ赴き、「とてつもなく遠い異郷の海を浮遊している不安」（同P48）を感じながら一人暮らしを始めた。

唐沢にとって、「山岳部は、少人数の村社会のようなもので、強い絆で部員同士が結びついており、これが煩わしいと感じることもないわけではなかつ

たが、しかし、私は、そうした濃厚な人間関係をあえて求めていたのかもしれない。」（同P68）

こうして、唐沢の山岳行が始まる。

夏山合宿に参加した新入生は、唐沢の他に8名いたが、山岳部員として卒業したのは、唐沢と、犬飼凱雄（農）、西木克侑（動）、金井千直（法政）の4名である。

夏山合宿に新たに加わった新入生に、榊泰明もいた。

榊の兄嘉夫（S38数）も山岳部員であったが、その年の冬山合宿で遭難し九死に一生を得ていた。「兄の遭難で学校側や山岳部の方々にかけつけたご迷惑やすまなさと山岳部にだけは入らないように」（『偃松』8号P27）という母の厳命もあったが、やはり好きな登山を断ち切ることはできず、入部したのであった。

写真は、昭和39年、剣岳早月尾根の春山合宿で、唐沢と犬飼との写真である。東京オリンピックの年であった。



*文中では、敬称を略させていただいた部分もございます。ご容赦ください

思い出の品々の寄贈（お願い）

茗溪創基150年記念事業

「茗溪創基150年記念事業」への参加のあり方として、「思い出の品々」を寄贈していただく企画を実施しています。

1. ご寄贈いただく「思い出の品々」について

- ・「思い出の品々」につきましては、その内容の指定や限定はございません。
- ・ご提供頂く場合、「簡単な説明」等を添えていただければ幸いです。

2. 送り先

- ・電子資料は、メールにて（peer@meikei.or.jp）までお送りください。
- ・郵送先は、「茗溪会大塚事務所」宛てに願います。

〒112-0012 東京都文京区大塚1-5-23 茗溪会館内（電話 03-3941-0136）

茗溪会館

或る日の茗溪会館



住所：東京都文京区大塚1-5-23
 交通：地下鉄 丸ノ内線 茗荷谷駅から徒歩3分(220m)
 最上階(5階)茗溪会大塚事務所には、執務中のスタッフ7人がいる。

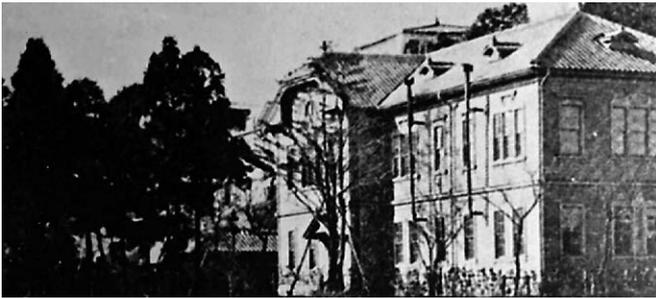
◆ 母校と茗溪会館

茗溪創基150年を経て、師範学校、東京師範学校、高等師範学校、東京高等師範学校、東京文理科大学、東京教育大学、そして筑波大学と、母校は校名を六度にわたり変更してきた。

教育目標や内容はさておき、東京教育大学(1949~1978)は30年間、筑波大学(1973~)は、東京高等師範学校(1902~1952)と同様、半世紀を経ている。

他方、母校の同窓会として、茗溪会は、母校開校から10年後の明治15(1882)年に発足し、現在に至る。

茗溪会事務所は四度、移転・改築をしたが、明治38(1905)年春、大塚に移転した母校の敷地内に新築以来、



1905年12月15日、茗溪会事務所は竣功し、翌年3月3日(土)に事務所改築落成式が開催され、嘉納治五郎校長が以下の祝辞を述べた。「同窓会として此の如き壮大なる会場を有する者は全国に比無きが如し、これ本会の基礎強固にして会員の友情深厚なるを示す者なり、尚今後、益発達せんことを望む。」(『教育』73号P35)

大塚の地に茗溪会事務所を構えて、120年を数える。

最近、部活動や学類・学群の同窓会が東京で開催されているのを耳にする。

「茗溪会館でやればいいのに」

「それなんですか?」

「教育大や筑波大の同窓会館だよ」

「集まれる部屋は、あるんですか?」

「人数や目的に応じて大小あるよ」

「場所はどこですか?」

「筑波大東京キャンパスの近くだよ」

茗溪会事務所は、茗荷谷駅(地下鉄丸の内線)から歩いて3分ほど、春日通り沿いの茗溪会館5階にある。



春日通から見た茗溪会館。中央丸の内線から歩くと、見至る。茗荷谷駅から歩いて3分ほど、春日通り沿いの茗溪会館5階にある。右隣の白い建物は、(株)第一生命が茗溪会から借地している茗溪ビルディング。

茗溪会館がこの地に建設されたのは、昭和8(1933)年のことで、戦禍から奇跡的に免れ、現在に至る。

西山松之助教授(S15国史)は、終戦直後の茗溪会館の思い出を綴っていた。

「戦後、文理大・高師の本館やE館が出来るまで、茗溪会館の1階寺崎写真館のところが高師の幹事室、その真上の部屋が文理大高師の学長室になっていた。これはかなり長期で務台理作と杉村欣次郎その他何代かの学長があ

の部屋に居られた。…こういう時代の茗溪会館は、私の勤めていた高等師範学校そのもので、次から次へと思いは尽きない。」(『茗溪』1001号P4)

戦後しばらくの間、茗溪会館では、焼け出された母校の学長や幹事たちの執務室、さらに図書文化に関係する人々が肩寄せ合いながら復興日本を描いていたのである。母校が戦災校復興のモデル・スクールに指定され、E館着工から本格的な校舎再建の途につき、事務棟や本館が竣工したのは1959年のことであるから、その辺りまでは「茗溪長屋」が続いた。茗溪会館の各部屋や廊下が活気でごった返していた、そのような一時期もあったということである。



平成の大改築前の茗溪会館(1933-1995)。会館前が春日通り。都電通りでもあった。

茗溪会館は、『平成の大改築』を経て、90年を迎えようとしている。改築前の建物の備品等を極力活用した工夫・配慮がなされ、風情ある内装を持つ五階建ての建物である。

10月20日(日)、館内では、4つの会合が開催されていた。

◆ある日の茗溪会館 午前11時

4階「新泉・筑波の間」である。

学生を交えた会合で、(財)柴田育英会が主催する「奨学生懇談育成会」であった。



花岡理事長以下26名の会合で、理事・監事のほかに選考委員や評議員が出席した。参加者の中には、奨学生OB・OGもあり、和気藹々の中で会食が進んだ。

柴田育英会とは、柴田周吉茗溪会第6代理事長が、「優秀な素質、確固たる意志を持ちながら不遇にして進学之机を失う青少年を救おうと決意し、私のいささかなる資産を提供しこの財団の設立を発意し」と「設立趣意書」に

あるように、昭和55(1980)年に設立され、現在まで183名の奨学生を支援してきた。

この日は、6名の奨学生が出席し、大学での研究内容や課外活動、卒業後の進路希望などの近況報告がなされた。

◆ある日の茗溪会館 午後2時

2階「茗溪の間」である。

茗溪会館で行われる定期音楽会で、今回は、ハローウィン音楽会であった。前日までの暑気をどこかに置き忘れたかのように爽やかな雨上がりの午後、音楽会は、高橋基之の独唱『平城山』から始まった。写真は、宮野陽子のヴァイオリン、小野靖子のピアノ伴奏で、高山千代美が『お母さん』を歌い上げている場面だろうか。



茗溪会館のTeatime Concertは、春のSpring Special Concert、夏のSummer Special Concert、秋のHalloween Special Concertそして、冬のXmas Concertで、年4回、開かれている。

ティータイム後、弦楽四重奏曲『狩り』(モーツァルト)『アメリカ』(ドヴォルザーク)、『美しき青きドナウ』(シュトラウス)と続き、『白鳥』(サンサーンス)の四重奏に乗って、白鳥が登場した。



「スタジオD」の大徳隆子先生の白鳥の舞に続いて、お弟子さんたちがランテラを舞い踊り、会場を盛り上げた。

『落葉松』が最後の演目となり、静かな感動の中で、音楽会は終演した。

◆ある日の茗溪会館 午後4時半

1階レストラン(及び中庭)である。

中秋にふさわしく、夕闇の冷たい風が吹きぬける中の「おとなの夕べ」である。

といいながら、子連れや中学生もいる。茗溪会館界隈の方々とのバーベキューのひと時である。30名強の宴会となった。



乾杯の後、参加者は室外に繰り出し、賑わいはバーベキューコートに広がった。

(株)シーズンの斎藤社長も沖繩から、江戸の銘酒『海都』を小脇に抱えて戻り、率先して「焼き肉奉行」をしてくれた。当夜は2階「茗溪の間」でも宴会があり、スタッフ手薄の中の奮闘であった。

名札を下げるストラップは3色ある。

赤色…法律・健康上飲酒禁止です
黄色…お酒は遠慮させてください
青色…お酒のお付き合いはできません

紫色(お酒はとことん付き合える)の用意も必要だったよね:冗談も飛び交う中で、茗溪会館の宵は更けた。



東京茗溪会 第12回 総会・講演会・懇親会

東京茗溪会では、毎年11月に総会を実施しています。今回は東京茗溪会が発足して12回目の総会で、令和6年11月24日(日)に実施しました。昨年同様、従来通りの総会・講演会・懇親会の三部構成での実施でした。

今回は、ハイブリッドではなく全てがリアルでの実施、参加者は(来賓、講演者を含め)68名となりました。講演会の講師が東野篤子先生ということもあり、遠くは名古屋など東京以外からの参加もありました。

第1部 「総会」

総会は、高橋基之会長(第一学群自然学類S53卒)の挨拶で始まりました。来賓挨拶は筑波大学永田恭介学長、多忙なスケジュールの合間を縫ってお越しいただきました。オリンピックで活躍した永瀬貴規さん(柔道・金メダル)や森秋彩さん(スポーツクライミング・4位)、役員として参加された先生方の紹介、あわせて9月1日に開校したマレーシア校(学際サイエンス・デザイン専門学群)の話題も含め、多方面で活躍する筑波大学の様子が紹介されました。

総会の議事は高橋会長の進行で行われました。第一号議案(令和5年度活

動報告・決算報告)、第二号議案(令和6年度活動計画・予算案)、第三号議案(令和7・8年度役員・幹事等)が全て承認され、無事に終了しました。

第2部 「講演会」

今回の講演者は、筑波大学人文社会科学教授で学術団体「ウクライナ研究会」副会長でもある東野篤子先生でした。演題は「混沌の時代の『平和』(ロシアによるウクライナ侵攻から考える)」で、ご専門のEUの視点から国際関係を捉え、これまでの歴史的な背景や現状分析、今後についても考える視点を示唆していただきました。



アメリカ大統領選の影響など、世界情勢が刻々変わる中、先生は当日もプレゼンテーションの資料を修正されるなどギリギリまで準備されていました。ここからは紙面の許す範囲で具体的な内容を紹介していきます。

最初に先生が言われたのは、ウクライナ侵攻が始まったのが2月24日、その注目すべき「24日」にウクライナについて講演するということに因縁を感じるということでした。私は逆に、先生が節目の日と言われる日に、話を聞けるという素敵な縁を感じました。

本題の最初は「ヨーロッパの国際関係」について。NATOが拡大する中、2008年のNATO首脳会議でウクライナが将来的にNATO加盟国になるとの宣言がなされました。それによって、プーチンがウクライナに軍事侵攻する言いつけができてしまったという話でした。

ロシアによるウクライナ侵攻は2022年2月に始まった訳ではなく、その前から着々と進められていたそうです。ウクライナが独立したときクリミア半島はウクライナ領土でした。ところが2014年にロシアがクリミアを占拠しました。その後、マレーシア航空機墜落事件やドンバス戦争が続き、衝突が懸念されるようになり、それを停止するため同年にミンスク合意が結ばれたという歴史があったそうです。しかし、その合意はロシアによって反故にされ、その後もウクライナへの接近は続いていたとのことでした。

侵攻前の2021年11月にはニュー



ヨークタイムスが「ロシアがウクライナを襲撃する可能性」を記事にしました。当時アメリカはロシアへの説得を始めていたとのこと。ドイツやフランスもロシアとの交渉を進めていたようですが、それが実を結ぶことはなくミンスク合意は崩壊してしまっただけの話でした。そして2022年2月ウクライナ侵略が始まりました。

次の話題は「ロシアによるウクライナ侵略と各国の立場の比較」という話でした。当初、ロシアは短期戦を想定していたようですが、各国の対応が消極姿勢から支援姿勢へと変化し、その状況が大きく変わったそうです。そのような中で、ロシアはアゾフ海や黒海沿いの地域を占領し、ロシア化してきました。EU各国のみならず、アメリカや中国の思惑もあり、またロシア

にはロシアの言い分があり、停戦交渉はますます困難を極めていきました。各国が停戦に向けて様々な提案をする機会もありますが、現在もお交渉は進んでいません。

「なぜ、ウクライナは停戦に応じないのか」という視点での話もありました。ウクライナは「停戦＝平和」とは考えておらず、「停戦は次の戦争への始まりになる」「停戦への安易な妥協はロシアのウクライナ支配を強化する」という考えが強いとのこと。話を聞きながら、ミンクス協定のトラウマもあり、ウクライナの本心は「ロシアは約束を守らない」「何をするかわからない」という思いで、それが根底に潜んでいるように私は思いました。

2024年6月には、ウクライナが掲げる和平案を協議する「世界平和サミット」が開かれました。ウクライナが2022年に示した「平和の公式」10項目のうち、実際に話題にされたのは「放射能・核の安全」「食糧安全保障」「すべての非拘束者と追放された人々の解放」の3項目だけで、「国連憲章の履行とウクライナの領土一体性と世界の秩序の回復」「ロシア軍の撤退と戦闘の停止」などは話題にならなかったそうです。中国はこのサミットの前に独自提案を発表し、100カ国以上が前向きと伝えました。しかし、中国はこのサミットには参加していません。中国の姿勢を象徴する対応のような気がしました。

最後に「最新の情勢と見通し」についても触れられました。ロシアの意志

はウクライナのNATO加盟の阻止。ウクライナはもともとロシアの一部から侵略ではないという意識もあるのでしょうか。一方のウクライナは、今のこの状況でも80%の国民が勝利を信じているとのこと。とは言え、その勝利の本身は人によって全く違うとも言われました。本当に平和が達成されるのであれば「既にロシア化が進んでいる」クリミアは仕方がない」「東部は仕方がない」等々の考えもあるとのことでした。

「北朝鮮による派兵は今のところ1万人程度だが、10万人程度までは増えるとの見方もある」「トランプ政権に関わる人はウクライナ問題に精通しているとは言えない」との話もありました。話を聞きながら、世界情勢そのものが予測不能なので、ウクライナ情勢もまだまだ先が見えないと思いました。結びに先生が語られた「自分には何ができるのか」という話も印象的でした。元国連難民弁務官の緒方貞子さんの言葉「見てしまったからには何かしなくてはならないでしょう」「できることから始めてみよう」を引用され、私には戦争を終わらせることはできないが、研究者として「調べて、伝えて、考えてもらおう」ことを追求したいと力強く言われました。

その後の質疑応答では数名の参加者から質問がありました。林元外相の国連総会緊急特別会合での「不当な平和」の話や、アメリカのみならずヨーロッパでも「自国ファースト」が台頭してきている現状についての考え方も興味

深かったですが、私が最も衝撃を受けたのは「プーチンの戦争なのか、ロシアの戦争なのか」という質問に対して「ロシア人は99%がロシアの戦争だと認識している」「プーチン」がいなくなっても第二第三の「プーチン」が出てくる可能性がある」という話でした。

第3部 「懇親会」

写真撮影を挟んで懇親会に移りました。講演会は質疑応答も含めて一時間半という短い時間だったので、話し切れなかったことが沢山あったと思います。

懇親会でも先生を囲んで、ウクライナ関連の話に花が咲き、今後の企画など夢のある話にも拡大していきました。日々忙しい先生ですが「今日は空けて多くの方々と交流できていました」。



講演会も懇親会も中身が濃く、参加の皆さんも豊かな時間を過ごされたことと思います。最後は恒例の宣揚歌を全員で熱唱して終了しました。

(文責・柳久美子)

元素講話こぼれ話 第七話： 温泉と元素

大嶋 建一

寒い季節に温泉で入浴することは一番の楽しみである。今回は温泉と元素について触れてみる。

はじめに、温泉の定義について日本温泉協会のホームページ (<https://www.spa.or.jp>) から引用する。温泉は「温泉法」という法律により、「地中から湧出する温水、鉱水及び水蒸気その他のガス（炭化水素を主成分とする天然ガスを除く。）で、下記に掲げる温度または物質*を有するもの」と定義される。そのため、地中から湧出時の温度が25℃以上であれば温泉となるが、25℃未満であっても下記の物質（19項目の内いずれか一つ以上）が規定量含まれれば温泉となる。（*）物質（以下に掲げるもののうち、いずれか1つ以上で、含有量1kg中の最小量）：溶存物質（ガス性のものを除く（総量1g））、遊離炭酸CO₂（250mg）、Li⁺（1mg）、Sr⁺（10mg）、Ba⁺（5mg）、Fe²⁺またはFe³⁺（10mg）、Mn²⁺（10mg）、H⁺（1mg）、Br⁻（5mg）、I⁻（1mg）、F⁻（2mg）、ヒドロヒ酸イオン（1.3mg）、メタ亜ヒ酸（1mg）、総硫黄S（1mg）、メタほう酸（5mg）、メタけい酸（50mg）、重炭酸ソーダ（340mg）、ラドン（極微量）、ラジウム塩（1億分の1mg）。また、温泉の泉質は昭和53年から主な化学成分を記した10の泉源名を示すことが環境省によって示された。なお、泉源の特徴、効用、温泉地名はホームページで見

て下さい。

ここで、化合物の溶液中のイオン化の仕組みについて、食塩（NaCl）が水にとける様子を例に挙げる。水分子（H₂O）は弱いプラスの電気を持つ水素原子部分と弱いマイナス電気を持つ酸素原子部分から成る。このために、食塩表面にあるNa⁺が水分子の酸素原子と、Cl⁻は水分子の水素原子と電氣的な力で引きつけあう。その後、次から次へと同じ現象を繰り返した結果、食塩は水に溶けて見えなくなる。実際の温泉水にはさまざまな陽イオンと陰イオンを持つ成分に加えて、非遊離成分、更には溶存成分（ガス）が含まれている。

最後に、「恋の病以外どんな病気でも治せる」と古くからいわれる草津温泉の温泉成分分析表をのぞき、特徴的な情報を示す。1. 温泉名・源泉名：草津温泉・万代鉱、2. 湧出地の泉温：94.6℃、3. 試験室における試験成績：①知覚的試験（無色透明微硫化水素臭）、②pH（1.61）、③蒸発残留物（2.42g/kg）（110℃）、4. 試料1kg中の成分、分量及び組成（成分名は省略）：①陽イオン、②陰イオン、③遊離成分 ア；非解離成分、イ；溶存成分、④その他の微量成分、5. 泉質：酸性-塩化物・硫酸塩温泉（酸性低張性高温泉）、の記述がある。昨年11月中旬、草津温泉にて開催された中学校の同級会では、露天風呂で紅葉を眺めながら入浴を十分楽しんだ。

参考文献：

- ・ニュートンムック「元素とイオン」
（株）ニュートンプレス

以下にて10の泉源と物質名を示す。

	揭示用泉質名	物質(温泉水1kg中)	泉源名
1	単純温泉	溶存物質1g以下 + 25℃以上	単純温泉、アルカリ性温泉(pH8.5以上)
2	塩化物泉	溶存物質1g以上 + 陰イオンの主成分が塩化物イオン	Na-塩化物泉、Na・Mg-、Na・Ca-塩化物泉
3	炭酸水素塩泉	溶存物陰イオン(炭酸水素イオン)1g以上	Ca(・Mg)-、Na-炭酸水素塩泉
4	硫酸塩泉	溶存物陰イオン(硫酸イオン)1g以上	硫酸塩泉、Mg-、Na-、Ca-硫酸塩泉
5	二酸化炭素泉	遊離炭酸(CO ₂)1g以上	単純二酸化炭素泉
6	含鉄泉	総鉄イオン(Fe ²⁺ またはFe ³⁺)20mg以上	鉄泉、鉄(II)-炭酸水素塩泉、鉄(II)-硫酸塩泉
7	酸性泉	水素イオン1mg以上	単純酸性泉
8	含よう素泉	ヨウ化物イオン10mg以上	よう素-Na-塩化物泉
9	硫黄泉	総硫黄2mg以上	硫黄泉、硫黄泉(硫化水素型)
10	放射能泉	ラドン30×10 ⁻¹⁰ キュリー以上	単純弱放射能泉、単純放射能泉

茗溪・東西南北

令和6年度 京都茗溪会総会・懇親会

令和6年11月9日(土)京都市中京区
の中華料理 膳處漢ぽっちりにおいて
京都茗溪会の総会及び懇親会を開催し
ました。



昭和44年卒から平成26年卒までの23
名が出席し、令和6年度総会に続いて
懇親会を開催、初出席のメンバーもい
る中、親交を深めることができました。
最後に宣揚歌を皆で歌い、会を締め
くくりました。

(京都茗溪会 事務局長 遠山 秀史)

第3回茗溪関西教育研究 産業人会議(MKS)

令和6年11月21日(木)、大阪・道頓
堀ホテルにおいて教育界と産業界で活
躍する近畿在住の同窓を中心として第
3回茗溪関西教育研究産業人会議(M
KS)を開催しました。参加者は36名で、
近畿のみならず関東・四国からの参加
もあり大いに盛り上がりました。

高江洲ひとみ氏(弁護士・平成20年
社会卒)と美濃部幸治氏(長谷工設計・
平成10年芸専卒)のショートトークや
高畑公紀氏(奈良生蓮寺住職・平成11
年生物卒)の講話については、参加者
から「講師の話は心に響いた。心に染
みた。感銘を受けた。」とのコメントを
多くいただきました。

また、参加者はテーブルを越えて大
いに名刺交換・情報交換をして、短時
間でありましたがとても有意義な時間
を共有しました。そして最後は大きな
一つの輪になって「桐の葉」を唱和し
てお開きとなりました。

MKS会長 香山恭慶(57年社会卒)



事務局からのお願い

季刊誌「茗溪」では会員みなさまの諸活動を本誌に掲載したく、広く原稿を受け付けております。同期会・クラス会に止まらず、サークル・同好会のOB・OG会、はたまた気の合うお仲間等々、そして各地域組織の諸活動などをご寄稿いただきたくお待ちしております。状況が分かる写真を添えていただけるとなお結構です。

原稿・写真の送付先は、メールはinfo@meikei.or.jpへお願いいたします。封書又はファックスでも結構です。皆様からのご投稿をお待ち申し上げます。

一般社団法人 茗溪会 季刊誌担当

〒112-0012 東京都文京区大塚1-5-23 TEL: 03-3941-0136 FAX: 03-3941-7674

◆筑波大学自然学類数学専攻1期生のつどい

とき 令和6年5月19日(日)
ところ 海鮮居酒屋北海道魚鮮水産BiVi つくば店
私たち数学専攻1期生は、1974年に入学したので今年
は入学50年になります。昨年、数十年ぶりに東京で
数学専攻1期生の会を開催しましたが、今年につくば
市で開催しました。懇親会の前に、有志11人でバスに
乗り、筑波大学で降りて大学構内を、1時間ぐらい散
策しました。卒業以来の方もいて、小さかった木々が
大変大きくなり、平砂宿舎の変化に驚いていました。
当時の景色も残っていたので、入学当初の話に花を咲
かせていました。
懇親会では15人参加で、大学時代の思い出や現役の
時の話など、あっという間の3時間でした。皆さん充
実した時間を過ごしたと喜んでいました。次回は皆さ
ん参加しましょう。(文責 高田道雄)



◆駒場筑波農業土木同窓会総会

とき 令和6年7月13日(土)
ところ ホテルローズガーデン新宿
昭和48年に発足したこの同窓会も筑波大学
の改組により農業土木と称する学問分野の線
引きが不明確になり、新規入会者が少なく、
先輩たちのご逝去や退会の方が増え、会員数
が減少の一途となっております。
持丸 晴久(S57年農林学類卒)

◆筑波大学体育専門学2期生同窓会

とき 令和6年8月24日(土)
ところ 銀座クラシックホール
4回目となる筑波大学体育専門学2期生
(1975年入学)の同窓会が行われました。入学
後50年近くが過ぎましたが、健康に留意しつ
つ、地域や社会で元気に活躍している55名が
旧交を温めました。
真田 久(S54年体育専門学群卒)



◆農林学類 3 期生会

とき 令和6年9月29日(日)
 ところ 嘉ノ雅茗溪会館

農林学類3期生119名中72名の連絡先が判明しており、今年は13名が集まった。生物資源学類(旧農林学類)の茂野隆一名誉教授の乾杯から始まり、嘉ノ雅の美味しい料理をいただきながら、和気あいあいとした時間を過ごした。個人個人の近況報告を聞きながら、最近の活躍や未来の希望の話は皆を明るくした反面、この夏にコロナで亡くなった同期生の知らせはショックを隠せなかった。最後は、幹事の渡邊(草間)悟が自作の「茗溪音頭」を披露して、お開きとなった。

文責：1981筑二農 1987筑博農 渡邊(草間)悟



茗溪音頭 作詞・作曲 五月友心ノ助

J=108

G E♭

お茶の水が 即ち茗溪
 シャンヤントシャンヤン 茗溪音頭

2. 茗溪音頭で シャンヤントシャン
 茗溪音頭 東京五洲
 深納治五郎 精力善用
 シャンヤントシャンヤン 茗溪音頭

3. 茗溪音頭で シャンヤントシャン
 浜崎運助 文楽科大
 互いに自衛す 自衛共栄
 シャンヤントシャンヤン 茗溪音頭

(セリフ) 茗溪には人を育てる伝統があり、
 そして茗溪は人が育つという未来を創造する

4. 茗溪音頭で シャンヤントシャン
 鳥多の因縁 教育大
 新築地は 筑波の地へ
 シャンヤントシャンヤン 茗溪音頭

5. 茗溪音頭で シャンヤントシャン
 藤々雅彦 筑波理才
 水く伝承 新たに創造
 シャンヤントシャンヤン 茗溪音頭
 もひとつおまけに茗溪音頭

◆筑波大学剣道部 1 期生の会 (剣翔会)

とき 令和6年10月10日(木)
 ところ 南熱海マリンホールならびにお肴野郎清介

本年の剣翔会は熱海で実施しました。稽古会には恩師である佐藤成明先生(86歳)と百鬼史訓先生(77歳)にご参加いただき、ご指導をいただきました。その後、会場を移し、百鬼先生の剣道八段昇段祝いを兼ねた懇親会を実施しました。懇親会よりの参加者および夫婦での参加者を含め、総勢25名の会となりました。

(木原資裕)

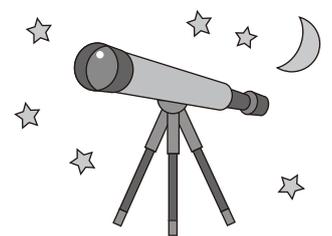


◆筑波大学天文研究会50周年記念事業

とき 令和6年10月13日(日)
 ところ 筑波大学～ホテルグランド東雲

1974年一期生の方々により創設された天文研究会は、本年50周年記念事業を行いました。5年毎に現役員の方々を中心になって記念事業を企画、運営して下さっています。参加者総勢149名。今回は50周年という区切りもあり2部制としました。小惑星探査機「はやぶさ」「はやぶさ2号」がサンプルリターンにより地球に持ち帰った岩石を解析した北海道大学塚本教授は筑波大3期生であり、天文研の大先輩でもあります。講演を筑波大学構内の講堂で行った後、グランド東雲でのパーティー開催でした。つくば駅から大学までは貸し切りバスでの送迎。大学講堂へ徒歩で向かう道中は、懐かしの文化系サークル棟脇を抜ける心憎い現役学生の演出もありました。またタイミング良く増光した紫金山一アトラス彗星の観望と盛りだくさんの行事となりました。

(1978年基礎工学類入学 一ノ瀬)



◆東京教育大学駒場寮三三会(昭和33年入学同期会)

とき 令和6年10月22日(火)
ところ 酢重ダイニング(東京:新丸の内ビル5F)
馬小屋と呼ばれていた寮に入った同期生36名、皆85才を超え鬼籍に入った友も多い中、8名が参加した。2食付き寮費2千円の時代、4年間同じ釜の飯を食い苦楽を共にした仲間である。会えば気持ちは寮生時代に戻る。楽しかった思い出に話が弾み、元気が出て明日への気力が湧いて来た。「元気で!」と再会出来ることを願い、握手して家路についた。
(榛葉恒治)



◆体育専門学群9期生大同期会 in 東京

とき 令和6年11月2日(土)
ところ GLASS DANCE(品川港南店)
1982年入学の同期は約240名。うち54名が東京に集まり大宴会を開催しました。若き日にタイセンを共に過ごした遠い記憶は、42年の時を超えて鮮やかに蘇り、往時を思い出しながらの楽しい会話で、3時間があっという間に過ぎました。締めは、円陣を組み、宣揚歌の大合唱。5年後の“大”大同期会での再会を誓いました。
(文責:田中秀幸)



◆人間学類2期生会

とき 令和6年11月30日(土)
ところ 嘉ノ雅茗溪会館
コロナ禍を隔てて約8年ぶりに茗溪会館で同窓会を開催。新幹線で福島や名古屋など遠方から集まり16名の参加となった。中には能登半島へボランティアをしてきた人もおり、まだまだ元気な仲間が驚かされた。また現役の内科医井上君からシニアの健康維持に関する貴重なアドバイスをいただくなど、有益で充実した時を過ごす事ができた。次回も拡大して開催する事を目指して賑やかなうちに散会となった。
文責:平田 治(1980筑二人間)



筑波大学は今

第50回筑波大学学園祭 「雙峰祭」を開催

11月2日～4日に、第50回筑波大学学園祭「雙峰祭」が開催されました。初日はあいにくの雨模様でしたが、11月3日と4日は天候に恵まれ、気持ちのいい秋晴れのもとキャンパスが大いに賑わいました。

本祭では、240もの企画が屋内外や特設ステージにおいて実施され、学生たちは日頃の研究や課外活動の成果を様々な形で活き活きと表現していました。屋外特設ステージでのパフォーマンスは生配信され、ご来場いただけなかった方々へも広く発信されました。学園祭のフィナーレを飾る後夜祭に



は、学長をはじめ副学長やご来賓の方々にご出席いただきました。会場は熱気に包まれ、学園祭のクライマックスに打上げ花火が夜空を飾りました。筑波大学の歩みと共に脈々と受け継がれてきた50回目の雙峰祭は、大盛況のうちに幕を閉じました。今年もたくさんの方にご来場いただき、今年のテーマ『筑ろう。』にあるように、学生や教職員、地域社会や卒業生、様々な方の結びつきとともに創りあげた盛大な祭となりました。

第48回筑波大学 秋季スポーツ・デーを開催

11月16日、17日、つくばキャンパスにおいて第48回秋季スポーツ・デーを開催しました。

筑波大学のスポーツ・デーは、開学して間もない昭和52年に第1回目を開催して以来、春季と秋季の年2回、各2日間開催し、本学の学生・教職員が共にスポーツを楽しむことのできる、筑波大学ならではの伝統ある行事です。運営においては、スポーツ・デー学生委員会として多くの学生達が企画・準備に取り組みました。

初日、二日目ともに天候に恵まれ、屋外ではサッカー、ソフトボール、ソフトテニス、アルティメット、屋内ではバレーボール、バドミントン、eSportsの各種目において熱戦が繰り広げられました。また、学生委員会企画として気配斬り、モルック、宅配便利レー、スキルズチャレンジ、イント

ロドン、いろいろなドッジ、PK対決、スポデー三種、9マス鬼ごっこが、サークル企画として課外活動団体の体験教室・公開練習が行われ、参加者達は仲間と一緒に笑顔でスポーツを楽しんでいました。

最後は恒例のバルーンリリースで締めくくられました。今回も、参加者の協力およびスポーツ・デー学生委員のスムーズな運営対応により、無事、全日程を終了することが出来ました。



「えがおカフェ」本格的に始動

筑波大学附属大塚特別支援学校の高等部の「職業の学習」として、ケーキやクッキーを製造・販売する「えがおカフェ」。生徒たちは、教員と新たに雇用了卒業生のサポートを受けながら、本格的なスタートを迎えることができました。製菓や接客の体験を通じて、



卒業後に社会で活躍できるように、実社会で役立つスキルを身に付けてほしいという思いから始まりました。

「えがおカフェ」の店舗は、同校内にある使われなくなったスクールバスの車庫を改修し、新たにおしゃれなお店に仕立て直したものです。この改修には、株式会社三和製作所の全面的なご支援をいただき、店舗は今年4月に完成されました。そして、10月から本格的な営業にこぎ着けることができました。毎週水曜日から金曜日の日中時間帯に、お菓子の販売やカフェサービスを提供しています。

同校内にある店舗では、他の「職業の学習」で製作したタオルハンカチや消臭剤などの販売も行っていて、生徒の学習の成果を地域の人々に向けて発信する場ともなっています。本格スタートした「えがおカフェ」、スタッフは、おいしいケーキとクッキーで皆さんを笑顔にしていけることを願っています。

茗溪学園だより

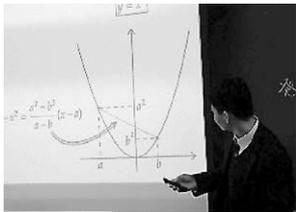
「個人課題研究」発表会

創立以来続く「個人課題研究」、その発表会が12月18日に開催されました。1年間の研究成果を、パワーポイントに凝縮させての口頭発表です。発表時間は10分質問5分で一人当たり15分、IB課程の生徒を除く高校2年生全員244名が発表しました。

発表を聞くのは、これから研究が始まる高校1年生。分野別に会場(教室)割りが行われているので、関心のある研究テーマの会場に行って発表を聞きます。



右手前に司会、タイムキーパー、座長の先生



数学テーマの発表。数学テーマ同士での質疑の応酬もあった

会場ごとに教師が座長を務め、司会生徒が進行役となり進めていきます。それぞれの発表の後、会場内の生徒達は、用意された評価表に観点別の得点を書き込み、それに座長の評価点を加えられます。この得点が3月開催(一般公開されます)の優秀発表会の発表者選考の参考点になります。

中学3年理科巡検

本校教育の特徴にはフィールドワークが多いことが挙げられます。学年行事として行っている、キャンプや研修旅行でもフィールドワークが必ず行われます。他に教科が主導して行うものがあり、この中学3年理科巡検も恒例行事の一つです。



地学コース：地形観察



生物コース：植生観察

本校の中学3年の理科の授業は、生物と地学としていきますので、生物コースと地学コースそれぞれのフィールドを設定し、10月下旬の2日間をかけて行いました。生物コースでは大洗水族館とつくば実験植物園を訪ねて環境エンリッチメントやバイオームについて学びました。地学コースでは地層や地形、岩石の観察から筑波山から霞ヶ浦にかけての成り立ちを考察するために上高津貝塚、桜川の契橋周辺、霞ヶ浦、予科練平和祈念館などで調査活動を行いました。

高校1年ACCクラス大分研修

アカデミアクラス(ACC)は、今年4年目となり1期生が高校1年生になり

ました。高校1年では、ステップアップ研修が行われますが、ACCは大分県での研修となりました(MGクラスは福島県をフィールドに実施)。



国際生との交流

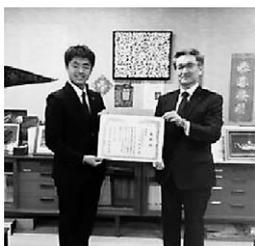
ACC大分研修は、別府市にある立命館アジア太平洋大学(APU)を訪問し、国際学生と交流をすることでした。また、別府温泉「鉄輪温泉」をフィールドとして、「別府の魅力とは何か」というテーマで調査をしたのち、国際学生に英語でプレゼンをする(グループ毎の課題)、キャンパスで出会った国際学生にインタビューをする(各個人の課題)という2つの課題をやりきって、

テーマについて考えをまとめ、その過程で自分自身を見つめ直すというものでした。生徒達は互いに協力し、妥協することなく懸命に課題に向き合いレポートにまとめ、最終日には斬新で魅力的な発表を展開していました。APUの国際学生は約3千名ということですが、今回の交流に参加してくれた学生は、イタリア、バングラデッシュ、ウズベキスタン、フィジー、ルワンダなどの出身で、多様なバックグラウンドを持つ学生達でした。この交流は、本校生徒にとって刺激的で貴重な経験となりました。また、「観光を学ぶとはどういうことか」というテーマで、サステイナビリティ観光学部の吉澤清良教授の模擬授業を受けました。これも貴重な機会となりました。なお、APUは本校の高大連携提携校であることから、このようなご協力をいただきました。

部活動報告(試合結果など)

◎**高校ラグビー部**：第104回全国大会出場(13年連続30回目) 東大阪市花園ラグビー場12月30日初戦 ◎**中学ラグビー部**：第44回東日本大会第3位、第30回全国ジュニアラグビー大会出場(年末、東京) ◎**高校バドミントン部**：県新人大会・男団優勝/女団準優勝/男単優勝・準優勝/男複優勝～4位まで独占/男団体全国選抜大会出場(3月石川県開催)、関東大会男単3位全国選抜大会出場(2年連続、3月石川県開催) ◎**中学体操部**：県新人・男団優勝 ◎**中学テニス部**：北関東私立中学大会・男団準優勝 ◎**中学柔道部**：県新人大会・女52kg級優勝 ◎**ボランティア同好会**：第28回ボランティア・スピリット・アワード受賞(4年連続、地域社会・国際交流に貢献)

【科学研究発表】：◎「科学の甲子園」県大会：総合3位(本校Aチーム) ◎**酪農学園大学獣医学科第4回サイエンスファーム2024**：優秀発表賞高2女子(個人研究テーマ「農作物の不可食部に含まれる防虫効果のある物質について」) ◎**日本薬科大学高校生サイエンス探求発表会**：最優秀賞高2女子(個人研究テーマ「タイハーブにおける抗アニサキス作用に関する研究」)、優秀賞高2女子(個人研究テーマ「タモギタケのアロバシー研究」) ◎**医師会作文コンクール**：優秀賞・高2男(題：「触れ合うことで生まれる理解」)



医師会長より授与される。校長室にて

追悼録 (敬称略)

逝去会員氏名・卒年科・地域・
逝去年月日・続き柄・遺族氏名

春日 輝海 S23理一	愛知	R6. 9.30	長男	春日 輝明	神宮 義章 S34教大総農	神奈川	R6. 6.14	妻	神宮 和子
牛田 幸一 S23理三	東京	R6. 9.26	長男	牛田 幸宏	佐藤 政弘 S34教大体	静岡	R5. 1.17	妻	佐藤みち子
渡部 定雄 S24文三	奈良	R6. 8.12	長女	東 明子	平野 稔 S34教大体	神奈川	R6. 1.15	妻	平野香代子
森 芳一 S24理一	群馬	R6. 5.26	長男	森 喜久雄	吉田 卓司 S34教大健	埼玉	R6. 6. 1	妻	吉田 孝恵
清水 国道 S24理三	北海道	R6. 8.29	長女	清水智佳子	伊藤 義和 S37教大体	愛知	R6. 9. 4	長男	伊藤 伯裕
小原 孝男 S26理一	北海道	R6. 9.27	長女	鈴木えり子	熊林 一利 S39教大体	新潟	R5.10.20	妻	熊林 薫
福田 實 S26理一	千葉	R6.10.24	二男	福田 健司	百瀬 忠征 S40教大植	東京	R6.11.11	妻	百瀬登美子
土橋 是幸 S29教大農	神奈川	R6. 2.22	二男	土橋 文明	小野 邦夫 S40教大体	大分	R6.11.20	妻	小野 愛子
前田 眞澄 S27文四	長崎	R6.11.27	妻	前田 佳子	赤松 征男 S43教大構成	東京	R6. 4.24	妻	赤松 昌子
佐野 和彦 S27理三	静岡	R6. 6.13	長男	佐野 雅彦	岡 宣比古 S51図短特養課	埼玉	R6. 5. 7	妹	岡 幸子
三澤 義一 S28大心	茨城	R6. 1.16	妻	三澤 晴子	豊崎 永英 S54筑二生	茨城	R6. 8.28	妻	豊崎 清美
飯塚重五郎 S31教大物	愛知	R6. 2.25	長男	飯塚恵理人	富山 順治 S55筑医	千葉	R6. 8.10	妻	富山富士子
岩田 洋 S32教大林	埼玉	R6. 7.17	長男	岩田 安生	磯野 康治 S59筑三社工	神奈川	R6. 8.17	妻	磯野 恵子
小林 靖典 S32教大総農	福岡	R6. 5.26	長女	伊藤 浩子	渡邊 弘子 H09筑体	香川	R6. 2.15	夫	渡邊 秀才

お願い

会員様のご逝去の連絡先について

◆茗溪会大塚事務所

メール：info@meikei.or.jp

電話：03-3941-0136

(火曜日、木曜日、金曜日

10時～16時)

※メールでのご連絡について

○会員様のお名前(漢字・フリガナ)

○ご逝去年月日(享年)

○会員番号が判ればご記載ください。

○ご連絡者のお名前、及び日昼に連絡のとれる電話番号を必ずご記載ください。

○茗溪会よりお問い合わせさせていただきますが、よろしくお願いたします。

(茗溪会事務局)



令和6年秋の叙勲

おめでとございます(敬称略)

瑞宝中綬章

赤平 昌文 44早大理工 (名誉教授の会)

橋田 紘洋 41教大林 43院修林 (愛知)

藤壇 規明 49院修体 (愛知)

瑞宝小綬章

小坂眞智子 51教大体 (香川)

蔵田 勇治 52教大体 (熊本)

箱崎二三彦 53筑体 (福島)

瑞宝双光章

峰 哲彦 36教大英 (群馬)

※本欄は、各地域からの調査報告により掲載しております。もし記載もれがある場合は、事務局までお知らせください。

広報

筑波大学主催・茗溪会共催

《第39回 教職研修会》対面式

月 日：令和7年2月23日(日) 10:30

会 場：筑波大学内

- 内容：個人面接講義
- 論文の講義
- 受験体験談
- 模擬授業講義
- 集団面接等の講義

※詳細は茗溪会ホームページを参照してください。

【公益財団法人 柴田育英会だより】

去る令和6年10月20日(日)、茗溪会館において奨学生と役員の方々との直接の交流を目的とした令和6年度「奨学生懇談会」が昨年に引き続き開催されました。

柴田育英会の理事等役員が12名と、筑波大学他3大学の奨学生全8名のうち7名が参加しました。会食をしながらの奨学生の自己紹介および近況報告の後、役員の話などで交流を深めました。

普段は顔を会わすことのない4大学1～4年生の奨学生達が、閉会後一団となって話し込んでいる姿を目の当たりにして、開催意義を改めて感じた次第です。(柴田育英会 事務局)



表紙写真について

(広報委員 鈴木一弘)

遠州三山の一つ可睡斎(静岡県袋井市)では、毎年元旦から「可睡斎ひなまつり」が行われます。供養のために納められたひな人形一千二百体が広間の三十二段のひな壇に飾られた様子は圧巻で、多くの家族やカメラマンが訪れる新春の風物詩になっています。

編集後記

◇帰ってきた「桐の葉のつどい」

本号の「桐の葉のつどい」には9件の投稿をいただきました。これは遡ること5年前、コロナ禍直前の令和2年正月号の11件以来の数字です。

本号のP19の下段に投稿要領を掲載しましたので、これからも会員皆様からのご投稿をお待ちいたしております。

昨年筑波大学開学50年を迎えて「筑波大学一期生の会・入学50年目の集い」が盛大に開催されました。今後「二期生の会」と続くのでしょうか。楽しみです。

お願い

- ・正確な会員情報把握のために、住所、勤務先の変更はすぐにご連絡ください。
- ・年会費のお振込みは、早めにお問い合わせいたします。

令和7年1月15日発行

発行 一般社団法人 茗溪会

茗溪会事務局・大塚事務所

112-0012 東京都文京区大塚一五二二三

TEL 〇三三三九四一〇一三六

FAX 〇三三三九四一〇一三六

E-mail info@meikei.or.jp

URL http://www.meikei.or.jp

郵便振替記号番号 〇〇一五〇一四九七七

筑波事務所

305-877 つくば市天王台一〇一

TEL 〇二九八五〇一〇四四

FAX 〇二九八五〇一〇四五

E-mail tsujimu@meikei.or.jp

印刷 東京都文京区関口一三九一〇

山浦印刷株式会社

— 筑波大学の知の発信 —
筑波大学出版会

病誌から考える
精神科面接
studia patho-graphica et casistica

佐藤晋爾 著



偉人の人生や言動、著作から精神疾患の可能性を検討し、どのように病と向き合ったかを解き明かす病誌(病跡学)を通じて、精神科面接のエッセンスを探る

ISBN 978-4-904074-84-8 (紙版) C3011
A5判並製 216頁 紙版・電子版 定価 3,740円

わが国における
制御焦点理論ならびに
制御適合理論に関する
実証的研究

外山美樹 編著
浅長三海 湯沼和昭
山峯秀立 慧聖人平 著



著者たちが行ってきた制御焦点理論ならびに制御適合理論に関する研究を、海外の先行研究や事例とともに紹介。動機づけ研究を志す方の必携の書

ISBN 978-4-904074-86-2 (紙版) C3011
A5判並製 328頁 紙版・電子版 令和7年3月刊行予定

刊行予定
最新精子学

(令和7年秋頃刊行予定)

稲葉一男 監修
伊藤直人 編
久慈健太郎 編
種村健太郎 編
吉田学 編

販売：丸善出版

株式会社 阿部兄弟建築事務所
平成26年度東京ワークライフバランス認定企業
<http://abeoffice.co.jp>



〒101-0032
東京都千代田区岩本町1-3-9 高木ビル
代表取締役 **荒井 豊人**(昭和57筑基工)
TEL 03-3866-4181 FAX 03-3866-4120

JUWA 株式会社 十和観光
代表取締役社長 井坂信洋

URL <http://www.juwa.com> E-mail travel@juwa.com
〒300-2451 茨城県つくばみらい市箕輪254
TEL 0297(52)1221 FAX 0297(52)1220

スポーツ&起業家&企業人「つくばウェイ」
TSUKUBA WAY プロジェクト
～茗溪・筑波OB・OGの活躍を集約!!～
<http://tsukubaway.com/>

株式会社 KTAJ
代表取締役 藤田 文武 (体育専門学群) 2004年卒

印刷・製本までトータルに対応

株式会社 **ケイエスアイ**
本社 〒557-0063 大阪市西成区南津守7-15-16
TEL 06-6652-8000 FAX 06-6652-8894

株式会社 長谷工 コーポレーション
HASEKO

〒105-8507 東京都港区芝2丁目32番1号
電話 03(3456)4501
取締役副社長執行役員 樋岡 祥之(昭57筑社工)

学校服のことなら

株式会社 **オリムピア**
〒124-0024 東京都葛飾区新小岩 1-43-6
TEL:03(3654)2251 FAX:03(3651)2323
<https://www.s-olympia.com>
取締役 渡邊(草間) 悟(56 農林・62 博農)

集めるのは「知識」と「技術」
さまざまなモノや思想を“寄せ集め”
教育の世界が求めるウオッツを形にする会社
PiCK & MiX
Keeping Up Innovation with Integrating
Art & Technology
株式会社ピックアンドミックス 代表取締役 松村直樹
<https://www.pickandmix.co.jp/>

FXC
Future X Communications

FXC株式会社 <https://www.fxc.jp/>
当社は光通信機器やイーサネットスイッチ等のネットワーク機器を開発・製造し、各地の公立高校始め、官公庁、企業等に多数納入実績がございます。
創業者：代表取締役社長執行役員 谷輪 重之(93筑修経営)

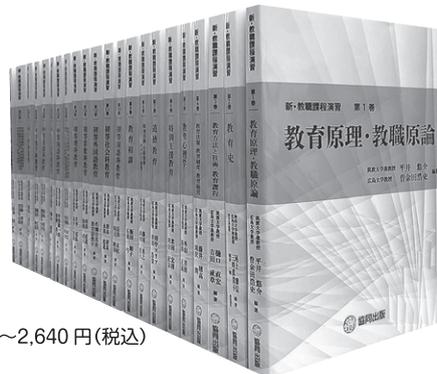
筑波大学教員、広島大学教員初のコラボレーション!

新・教職課程演習
全22巻

筑波大学人間系教授 清水美恵 監修
広島大学大学院教授 小山正孝

明治時代から我が国の教員養成をリードしてきた筑波大学教育学学位(大学院)プログラムと、広島大学大学院人間社会科学研究所(旧大学院教育学研究科)の専任教員が編者として初めて協力の画期的な演習シリーズ。我が国の教員養成の質向上を一段と図ります。

A5判・並製
定価：1,650円～2,640円(税込)



協同出版

〒101-0054 東京都千代田区神田錦町2-5
TEL.03-3295-1341 FAX.03-3233-0970 HP.<https://kyodo-s.jp>

「新・教職課程演習」全22巻



「本気」で結婚を目指す

筑波大学同窓会員の皆様

「成婚」をサポートいたします。

To achieve your happy marriage.

筑波大コース

通常登録料

~~33,000円(税込)~~

▶▶ 0円

受付時に
「『茗溪』を見た」と
お申し付けください。

47年の実績で成婚までサポート

株式会社ブライダルは創業以来47年にわたり、大学同窓会員の皆さまをはじめ、たくさんの方々を成婚に導いてきました。少子化が叫ばれる昨今、当相談所は「幸せな結婚を実現する」という面で社会貢献を目指しています。

特に筑波大学の皆さま向けの「筑波大コース」は大変人気で、多くの同窓会員様にご利用いただいております。この「『茗溪』を見た」とお問い合わせ時にお申し付けいただいた方は、通常33,000円の登録料を【無料】にてご入会いただけます。本気で結婚を考えているお相手との出会いを求める方は、ぜひお問い合わせください。

定期的に「親御様無料説明会」を開催中です。

47年に渡るノウハウで
お子様との会話の秘訣を
お伝えしています。
HP・フリーコールより
お気軽にご相談ください。

1978年創業



あなたと未来をつくる
Bridal



0120-415-412

営業時間：平日 10:00～20:00 / 土・日・祝 10:00～18:00
定休日：月曜日(祝日は除く)・年末年始

ブライダル 結婚相談

検索

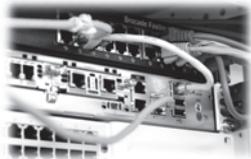
<https://www.bridal-vip.co.jp/>



東京本社：〒160-0023 東京都新宿区西新宿8丁目4-2 野村不動産西新宿ビル9F 名古屋本社：〒460-0008 愛知県名古屋市中区栄3-7-13 コスモ栄ビル9F



「安心」「安全」「快適」な
ITインフラ環境を最先端の技術で実現



- ・社内ネットワーク
- ・院内ネットワーク
- ・無線 LAN, Wi-Fi
- ・テレワーク, Web 会議
- ・セキュリティ



FAAM



ESMO



No Man



Do RAY

豊富な実績、高い技術力で、皆様に最適な
ITソリューションをご提供いたします。

株式会社 FYF

～ ITソリューションでより良い未来を～

会社 HP

<https://www.fyf-h.com>

x (旧 Twitter) @FYF_INC

本社	〒277-0843 千葉県柏市明原 1-1-6 TEL 04-7192-8927 FAX 04-7192-8929
関西支店	〒530-0026 大阪府大阪市北区神山町 1-5 扇町公園ビル 6F TEL 06-4306-4019 FAX 06-4306-4023
九州支店	〒812-0029 福岡県福岡市古門戸町 2-4 KS コモビル 5F TEL 092-406-4443 FAX 092-406-4453
東北支店	〒980-0803 宮城県仙台市青葉区国分町 1-6-18 東北王子不動産ビル 5F TEL 022-226-7290 FAX 022-226-7291
北海道支店	〒060-0062 北海道札幌市中央区南二条西 1 丁目 1-2 21 きのしたビル 9F TEL 011-206-7482 FAX 011-206-7483



【会社 HP】

広告を募集しています。

事務局までご相談ください。

一般社団法人 茗溪会

〒112-0012

東京都文京区大塚 1 丁目 5 番 23 号

電話 03(3941)0136

FAX 03(3941)7674

eメール info@meikei.or.jp

ホームページ http://www.meikei.or.jp

自分らしく成功できる社会に向けて、いま育てたい力

ウェルビーイングをデザインする

小中学生の非認知能力

櫻井茂男 [著] (筑波大学名誉教授) 四六判176頁 定価2,200円(本体2,000円+税10%)

近い未来すら見通しづらい時代、子どもたちに「自分らしく学び続ける力」を育てることが、かれらが生涯にわたって「よりよい人生」をデザインしていく原動力となります。

本書の特徴

- (1) 認知能力と非認知能力が両輪となり、学力 (資質・能力) の向上を推進する
- (2) 自ら学ぶ意欲のプロセスモデルをとおして育て、子ども時代のウェルビーイングも向上できる
- (3) 自分らしく成功できる社会に向け育てたい力を精選し、いま学校や大人たちにできることを提案



おもな目次

- | | |
|-----------------------|---------------------|
| 第1章 非認知能力とは何か | 第4章 自己に関する非認知能力 |
| 第2章 認知能力と非認知能力 | 第5章 他者や社会とかかわる非認知能力 |
| 第3章 学力、ウェルビーイング、非認知能力 | 第6章 小中学生の非認知能力を育てる |

〒112-0012 東京都文京区大塚 1-4-15
<http://www.toshobunka.co.jp/>

図書文化

TEL. 03-3943-2511 FAX. 03-3943-2519

Meikei-
Making
the
Difference



Meikei
High School

茗溪学園中学校高等学校

* 茗溪学園は1979年に茗溪会の百周年記念事業で生まれた学校です

- ◆ 寮のある学校です
海外からの外国人留学生も生活しています
- ◆ 国際バカロレアIBDP課程認定校です
- ◆ 「知識」「体験」「考え方」
——とことん学び身につけます
- ◆ 部活動が盛んな文武両道の学校です
- ◆ 多くの海外姉妹校があり、交流が盛んな学校です
- ◆ 文部科学省SSH（3期目）認定校です

「SS研究・個人課題研究発表会」
（筑波大学後援）および
「SSH活動報告会」開催のお知らせ

期日：令和7年3月6日（金）

会場：茗溪学園内

内容：本校高校2年生SS研究および個人課題研究（優秀研究）口頭発表・ポスター発表、2024年度SSH活動成果報告
一般公開いたします

（一般公開などの情報につきましては、ホームページまたは下記メールでお問い合わせください）



アクセス つくばエクスプレスTX つくば駅A3A4出口 バスターミナル4番のりば「ひたち野うしく行」バス、
「環境研究所」下車徒歩5分 または JRひたち野うしく駅 東口バス乗り場「つくばセンター行」
e-mail kouhou@meikei.ac.jp（見学等） entry@meikei.ac.jp（入試等）